http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１８２０号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

美術，芸術（美術）第41号
－中学校，高等学校，特別支援学校対象－
平成26年10月発行

視覚的なプレゼンテーション能力を育成するための学習指導の在り方

2020年オリンピック東京招致のためのプレゼンテーションが世界で脚光を浴びたように，他文化共生の社会生活を営む上で，思いや考えを他者に分かりやすくプレゼンテーションする力は，今後全ての人々に必要な力になると思われる。造形要素を扱い，目に見えるものだけでなく，目に見えない想像や心，精神，感情，イメージといったものを可視化しながら感性を育て情操を養う美術においては，特に身に付けさせたい力の一つである。しかしながら，その能力は，デザインや映像メディア表現，鑑賞等多くの学習活動の関連により培われるものであるため，学習指導の在り方が明確でない。

そこで，本稿では，視覚的なプレゼンテーション能力を育成するための学習指導の在り方について述べる。

１　学習指導要領における関連事項

中学校美術科及び高等学校芸術（美術）の学習指導要領において，プレゼンテーションに関連した事項は次のとおりである（第１学年，美術Ⅰについて抜粋）。

第２　各学年の目標及び内容
〔第１学年〕２内容
A　表現　(2)
　イ　他者の立場に立って，伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え，表現の構想を練ること。
B　鑑賞　(1)
　ア　造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫，美と機能性の調和，生活における美術の働きなどを感じ取り，作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして，対象の見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕(1)
　ア　形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること。
　イ　形や色彩の特徴などを基に，対象のイメージをとらえること。

『中学校学習指導要領解説　美術編』H20

第４　**美術Ⅰ**　２内容
　A　表現
　　(2)　デザイン
　　イ　表現形式の特性，形や色彩などの造形要素の働きを考え，創造的な表現の構想を練ること。
　　(3)　映像メディア表現
　　イ　色光，視点，動きなどの映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練ること。
　B　鑑賞
　　ア　美術作品などのよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り，理解を深めること。
　　イ　映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り，理解すること。

『高等学校学習指導要領解説　芸術編』H21

２　指導計画例

中学校及び高等学校におけるプレゼンテーションの指導計画例を次に示す。

題材名		学習内容	学習時間等
中学校第１学年	(1) 気持ちを伝えるデザイン	名刺や飛び出すカード，形の工夫された手紙，メッセージボックスなどをつくり，実際に渡した相手にコメントをもらう。学習のまとめとして成果をプレゼンテーションし，表現及び鑑賞の力を育てる。	○作品の発想や構想…１時間 ○作品制作…３時間 ○プレゼンテーションの構想…１時間 ○プレゼンテーションの作成…２時間 ○プレゼンテーションの実施…２時間
高等学校美術Ⅰ	(2) 学校紹介プロジェクト	キャラクターデザイン，リーフレット，ポスター，Webサイト，教室表示ピクトグラムなど，学校をよりよく紹介する作品を班ごとに制作するために，発想や構想をプレゼンテーションにより伝える。印象に残るよう構想し，お互いのよさを鑑賞できる力を育てる。	○制作物及びプレゼンテーションの企画　…１時間 ○提案する試作及びプレゼンテーションの作成…３時間 ○プレゼンテーションの実施…１時間 ○制作　…３時間 ○作品の鑑賞…１時間

プレゼンテーションを取り扱う場面には，主に指導計画例の題材(1)のような学習のまとめの場面と，題材(2)の発想や構想の場面の二つがある。学習事項を関連させ創造的な技能を習得させる意味から，(1)の学習においては，作品制作時のデザイン学習と関連させた知識と技能を活用した発表資料を作成させ，(2)の学習においては，発表資料作成の段階でデザインや映像メディア表現に関する指導を行い，その後の制作に関連させることが望まれる。

３　プレゼンテーションの方法等について

美術の授業では，ビジュアルな表現方法により情報を分かりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力を育成するため，形や色彩を使ったプレゼンテーションに取り組ませたい。

２の(1)「気持ちを伝えるデザイン」では，実物を提示することが可能だが，途中経過や部分をよりよく伝えるために，写真等の映像メディアを活用することが望ましい。２の(2)「学校紹介プロジェクト」の場面では，文書や言葉による説明だけでなく，絵コンテや図，映像や実際に触れられる試作品などの資料を作成させることが求められる。

これらをプレゼンテーション用のソフトウェア等を活用し，大きな画面で拡大しながら，簡潔かつ分かりやすく説明させたい。

また，発表のみを目的化せず，手段として位置付け，資料作成やグループでの話合い，事後の振り返りといった活動の過程を重視させることが重要である。

４　伝えるべき情報の選択及び構成について

(1)　伝えるべき情報の選択

相手が知りたいことを示せるよう，相手の視点で内容を考えさせる必要がある。鑑賞において批評し合うなどの既習活動の振り返りや，グループでの活動における聞き取り，ブレインストーミングを取り入れたアイデアスケッチなどを行わせることで，試行錯誤させ，伝えるべき情報を取捨選択させたい。

(2)　選択した情報の構成

情報を効果的に伝えるためにはプレゼンテーションの流れやストーリーを考察する必要がある。そのために，(1)で取捨選択した内容を話す内容と提示する内容に分け，シナリオや絵コンテとして書き出させたい。また，文字情報が多すぎる発表資料は伝わりにくく，イメージが残りにくい。情報をシンプルに視覚化することにより，瞬時に認知でき記憶に残りやすい伝達ができるため，言葉をキーワード化させることや，情報を図式化させながら構成させることが大切である。

５　発表資料作成に必要なデザインの指導の実際

視覚的なプレゼンテーション能力を育成するためには，レイアウトや配色の基礎知識を身に付けさせることが大切である。以下，指導すべき知識について紹介する。

(1)　レイアウトについて

レイアウト（配置）の知識を理解させ，試行錯誤，創意工夫する学習を繰り返すことで，多くの人が共通して感じる美しさを表現させることができる。

ア　整列（揃える）

デザインの各要素を基準を決め整然と並べること。「左揃え」，「センタリング」，「両端揃え」などがその例であり，整列させることで空間に「見えない線をつくる」ことができる。

イ　近接（まとめる）

情報の性質や意味が同じものを近くに配置すれば，幾つのグループの情報があるのかが瞬時に分かる。

ウ　対比（コントラスト）

重要なこと，強調したいことをより目立つよう差異をつけて表現すること。思い切ってメリハリをつけさせることで，より簡潔に伝わりやすくなる。

(2)　配色について

ここでは，実践的な配色の基礎となる三つの色彩調和を示す。

ア　同一調和（同一色相による調和）

同一調和とは，明度，彩度に変化をつけた1色相の配色である。全体のイメージを印象付けやすい。

イ　類似調和（近似色相による調和）

類似調和とは，色相環で40度離れた2色相による配色である。近似色の組合せであり，統一感を得やすい。

ウ　対比調和（補色色相による調和）

対比調和とは，色相環で180度離れた色相の配色である。コントラストが強くなり，より鮮やかに見える。

ただし，明度差がない場合，逆に（ハレーションにより）見づらくなることに留意する必要がある。

６　発表資料作成に必要な映像メディア表現の指導について

(1)　静止画について

平面のアイデアスケッチや完成作品などをゆがみを発生させずに提示したい場合は，スキャナを利用することが効果的である。また，写真では光の方向や量，カメラアングルなどによって，発色や立体感，質感などが変わるため，様々な状態の撮影を繰り返し試行させ，プレゼンテーションで伝える意図に応じた効果的な表現の構想を練らせることが大切である。

(2)　動画について

ビデオやアニメーション，動きを伴うWebサイトを提示する際には，実際に動画を提示させることが効果的である。なお，動画があまりにも長い場合は伝えるべきポイントが不明瞭になることがあるため，必要に応じて再生場面のカットや再編集をさせながら構想を練らせることが大切である。

(3)　編集について

コンピュータなどを用いて，静止画や動画の合成や形の変形，色の置換，特殊効果を加えるなどの編集が可能である。ただし，あまりにも加工しすぎたものは，実物とかけ離れたイメージを伝えてしまう。プレゼンテーションにおいては，必要な部分のみを提示させるトリミングの効果を学習させたい。また，編集による比較が瞬時に可能な場合には，様々なシミュレーションを行わせることにより新たな表現意図や価値観の育成につなげたい。

７　プレゼンテーションの実施及び鑑賞について

(1)　発表準備について

口述を準備させるとともに，リハーサルを行うための時間の確保が必要である。これにより，生徒は更に構想を高め練り直す能力が培われる。

また，教師は著作権や肖像権，人権教育の視点に立った指導をしておく必要もある。

(2)　実施及び鑑賞について

生徒にとって，伝わる喜びを味わい，新しい意味や価値を生み出す活動とするために，発表した自己評価をまとめるだけではなく，他者からの意見をもらう手立てが求められる。具体的には，付箋紙を用い，他者の発表の良かった点と改善すべき点をワークシートに貼り意見を述べ合うなどの活動が適している。

各学校の美術の授業でよりよい実践が行われ，生徒たちが生涯にわたり国や言語・文化を越え，視覚的な素晴らしいプレゼンテーションができる能力を培うことを期待している。

－　引用・参考文献　－

１）文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』H20

２）文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術編』H21

○　佐藤好彦著『デザインの教室　手を動かして学ぶデザイントレーニング』Mdn社

○　佐藤好彦著『デザインの授業　目で見て学ぶデザインの構成術』Mdn社

（教職研修課）